

「自然環境」を 持続可能にする

ENVIRONMENT

環境に優しい素材を追求、 羽毛に替わる 「カポック」を使用した取組み

持続可能な未来の実現に向け、ファッションやファブリックなどの繊維業界では、環境配慮の視点から、サステナブルな素材を使用する取組みが普及しています。

当社でも、汗や湿気を吸って発熱し、羽毛に近い軽さと暖かさを兼ね備えていることで知られる繊維、「カポック」を採用した、アパレルや寝具などを開発しました。「カポック」は、東南アジアを中心に自生する植物で、少ない水で育ち、強い農薬も不要。木の実から繊維を収穫できるので木を伐採することなく、環境に悪影響を与えにくいサステナブルな素材として注目されています。

今後も、自然環境の負荷軽減につながる、天然素材や再生素材などを採用したアイテムを展開していきます。

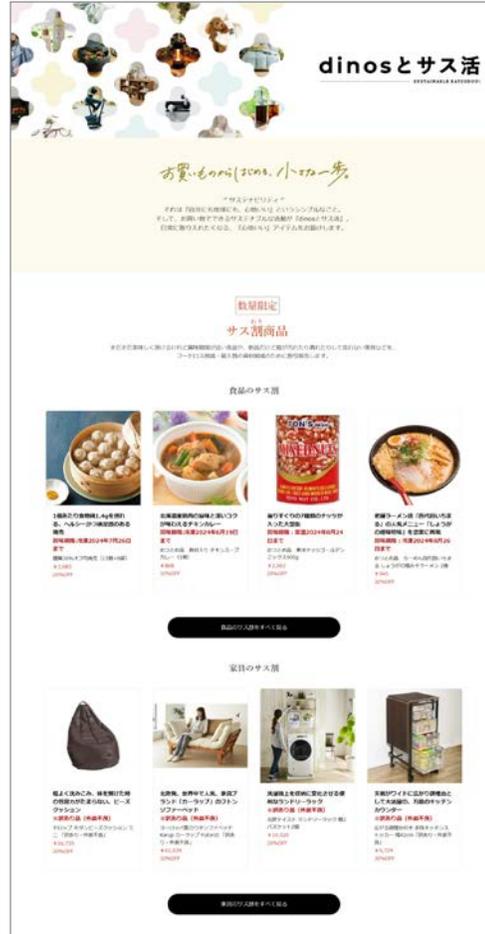
貴重な資源をきちんと守り、大切に使い続ける 環境にやさしい取組み

当社では、環境配慮商品をはじめ、サービスや情報の提供など、様々な視点からの自然環境に関する取組みを行っています。商品では、ダウンの希少性を鑑み、木の実由来の代替素材を使用した寝具やアパレルなどの開発を進めたり、情報としてお客様に選んでいただきやすいよう、サステナブルな商品だけを集めたwebコンテンツを開発しました。また、家具レンタルの返却商品を廃棄せずに奨学生に無償提供する取組みや、世界共通の課題である「脱炭素」に向けた企業アクションとして、長野県木曾町で植樹活動を開始しました。



「木に実るダウン」といわれる素材「カポック」を中わたに使用した、ケットやコート

「自然環境」を 持続可能にする



ディノスオンラインショップ内に設置されている、
[「dinosとサス活」](#)

サステナブルな商品に特化、 webコンテンツ 『dinosとサス活』をスタート

当社では、お客様とともにサステナブルな未来を実現していくことを目指し、「お買い物から始める、小さな一歩。」をテーマに掲げ、サステナブルな商品を集めたコンテンツ『dinosとサス活』をディノスオンラインショップ内に立ち上げました。

主に環境に配慮した商品を取り揃え、商品情報だけでなく、商品背景にあるストーリーをご紹介するコラムも定期掲載しています。さらに、フードロスへの取組みとして賞味期限が迫った食品やシーズン外の商品、あるいは外装不良などで正規販売ができない家具などを割引価格でラインナップした「サス割」コーナーも設置。お買い物为社会課題の解決に繋がる、“サステナブルな気づき”を生むきっかけになるようなコンテンツ作りを行っています。



レンタルで返却された家具を、 『奨学家具』として無償提供

2023年度より、当社が展開する、新品家具レンタルサービス「flect」で返却された家具を、『奨学家具』として公的奨学金を受給する大学生を対象に、無償提供する取組み「奨学生応援プロジェクト」を開始しました。

レンタルサービスではお客様から返却される家具をいかに再利用するかが課題ですが、環境配慮の視点から家具を廃棄せず、社会に役立つものとして再生させる取組みのひとつとして、同プロジェクトを行っています。

今後も、未来を創る学生の皆さんの経済的課題の解決に貢献するとともに、廃棄の削減にもつなげるべくこの取組みを続けていきます。



[奨学生応援プロジェクト](#)
[奨学家具プロジェクト](#)



素材の再利用をテーマにした、 フラワーギフトを提案

当社が運営する「フジテレビフラワーネット」では、「人と環境に優しいお花のギフト」の特集を展開し、日々の暮らしを彩るフラワーを提供しています。

この中では、環境配慮の視点から、再生ペットボトルやプラスチックを原材料に使用することをコンセプトに掲げた、造花メーカー「東京堂」のオリジナルブランド「ReCO(リコ)」のフラワーをラインナップ。再生プラスチックを使用したアーティフィシャルローズのフレームアレンジメントや、ビビッドなバラをアンティーク風にアレンジしたブーケに、再利用したガラスの花瓶をセットにしたものなど、彩りを添えながらもそこに環境へのやさしさをプラスした商品を提案しています。



再利用したペットボトルやガラスをセットにした、
フラワーギフトを提供



デザイン性の高さが 存在感を放つ、 サステナブルな国産材スツール

スギやヒノキに代表される針葉樹に比べると硬いという特長から、より家具材に適しているとされている広葉樹。長年、国産材家具を取り扱ってきた当社では、日本各地で産出される様々な広葉樹に着目し、家具の5大産地のうち2つのエリアから職人が作り出すスツールをご紹介します。

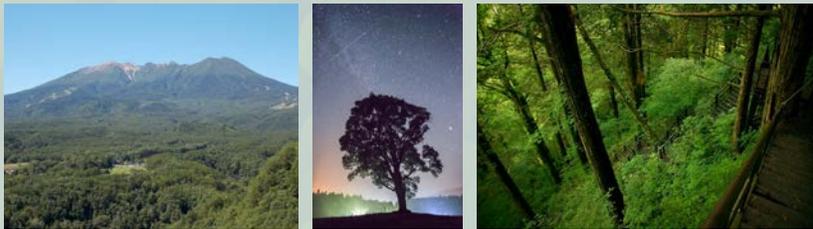
北海道・旭川で生まれる「マッシュルームスツール」は、寒冷地である北海道で育った木目の細かい木材・ナラを用い、同じく道内の畜産業の副産物である天然皮革を高品質の「北海道レザー」として座面に施した商品です。また、福岡県・大川で作られる「モナカスツール」は、和菓子に着想を得てデザインされた再生ポリエステル等が素材のカラフルで可愛い座面に、広葉樹の中でも成長が早く、一般的な針葉樹と比べCO₂の吸収能力が約3倍高いとされる九州産のセンダムを使用しています。どちらの商品もスタイリッシュなアイテムとして多彩なライフスタイルに寄り添うとともに、国産材を適切に伐採→商品化→再び植林という森の健全な「循環」にも役立っています。



「自然環境」を持続可能にするための一環として、当社では2023年度より、音楽家の坂本龍一さんが創立した森林保全活動に取り組む一般社団法人more treesとともに、長野県木曾町・開田高原に「ディノスの森」として多様性のある森づくりをスタートしました。



長野県木曾町・開田高原



長野県南西部に位置し、総面積の90%が山林だという緑豊かな木曾町・開田高原に「ディノスの森」があります。山々に囲まれた木曾町は、古くから「木曾ヒノキ」に代表される銘木の産地として知られており、林業や木工製品の生産が盛んな場所です。そして標高1,000m以上に広がる開田高原は夏でも冷涼な気候で、山々や川に恵まれた美しい自然の広がるエリアです。

初年度の植林状況とCO2吸収量

木曾町では人工林の林齢が高齢化し、林相転換（森林の状態を人為的に変えること）が求められており、今回の取り組みによってヒノキの単一林から、「多様性のある森」への転換を目指しています。初年度となる2023年度は、「秋植え」「春植え」のどちらが植林時期として適しているか見極めるために、2回に分けて植林を実施。合計1.11haに、コナラ・ミズナラ・クリ・ヤマハンノキ・シラカンバ・オオヤマザクラの合計6樹種・2,220本植林しました（秋植えは2023年11月、春植えは2024年6月に実施）。また、林野庁が提供する「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法」に基づいて算定した結果、2023年度末時点で当植林活動によるCO2吸収量は2.0t-co2となりました。



「森林保全を通じた地方創生事業に関する連携協定」を木曾町と締結

今回の植林活動に伴い、開田高原がある木曾町との間で、「多様性のある森づくり」「木材の利活用促進」「SDGs」等で連携すべく、2023年10月に「森林保全活動を通じた地方創生事業に関する連携協定」を締結しました。

次年度以降は、お客様の口コミ数に応じて植林を実施

昨年実施したアンケートでは、6割のお客様が一番関心の高い社会課題として「自然環境」を挙げていることもあり、お客様の“森を応援したい”という思いを森づくりにつなげています。具体的にはお客様の口コミの数3万件を次年度植林成立のゴールとして示し、お客様の関心・意欲も高められるよう、植林状況等も随時報告しています。

未来につながる、森づくり。「ディノスの森」 https://www.dinos.co.jp/forest_s/

一般社団法人more trees *moreTrees* <https://www.more-trees.org/>